

緊急注意喚起情報

7月は水管理強化月間です

米づくり技術情報 No.15

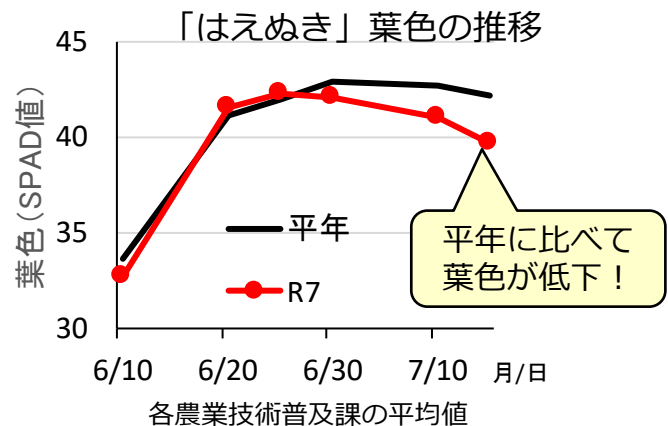
令和7年7月15日

さらに高温続く！ 葉色が薄い圃場では追肥を検討！ 干ばつ注意！ 水管理の徹底を！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

7月15日現在の平坦部「はえぬき」の葉色は、平年と比べて淡く、一部の圃場では極端に淡くなっています。6月下旬からの高温でイネは消耗していると見られます。

また、7月15日発表の2週間予報(7月16日～26日)によると、今後も最高気温35度前後の暑さが続く見込みです。



この暑さを乗り切るため

適正な葉色を維持しイネを消耗させない管理をしましょう。

出穂15日前頃の追肥 「はえぬき」「雪若丸」

イネの葉色が薄い場合

→ 例)すでにSPAD値で36(穂揃期の目安)を下回っている。

穂肥を施用済み、もしくは全量基肥栽培の圃場でも

出穂15日前頃に窒素成分で1.0～1.5kg/10aの追肥を検討する。

※但し、特別栽培の場合は化学肥料由来窒素量の上限に留意する。

ケイ酸資材の施用

ケイ酸資材(水口施用等)を積極的に施用する。

→ 光合成促進、根の伸長促進、耐倒伏性向上、
窒素利用率向上の効果あり。



ケイ酸資材の水口施用

「間断かん水」もしくは「飽水管理」の徹底

7月以降の少雨の影響で圃場が乾燥し、葉先が枯れた圃場も見られています。干ばつは穂数や籾数が減少し、減収に直結します。

間断かん水もしくは飽水管理をしっかり行って根の伸長を促進しましょう。

**「水のためっぱなし」と
「田面にヒビが入るほどの乾燥」は
厳禁！！**

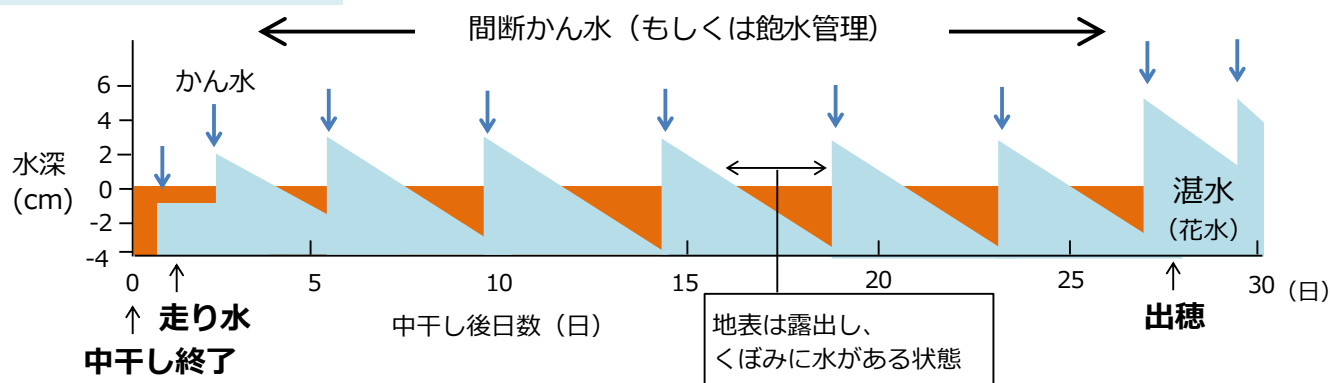


田面のヒビ

平成30年は7月が高温多照少雨で経過し、イネの消耗や根の活力低下がみられ、収量低下の一因となりました。今年の7月も類似した気象となっているため、根の活力を維持する水管理を徹底しましょう。

間断かん水で、根の伸長が促進されます！

水管理のイメージ



地域全体に用水が行き渡るように関係者でよく話し合い、
限りある用水を効率的に利用しましょう。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！